令和7年度　飯塚市事務事業評価シート

令和　8　年　6　月　19　日　作成

事務事業名	飯塚文化連盟補助金交付事業	事務事業No.	561 - 2

1．基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
教育部	文化課	文化振興係	担当	中島	文化課長	瀬尾　善忠

施策体系				
総合計画	政　策	5	教育・文化
	施　策	6	文化芸術の創造
	基本事業	1	市民による文化芸術活動の推進
その他の計画	個別計画		飯塚市文化振興マスタープラン

根拠法令・条例・要綱等	文化芸術振興基本法、飯塚市文化振興基本条例、飯塚市社会教育団体補助金等交付要綱				
事業開始年度	平成18年度	事業終了年度	－	事務事業類型	ソフト事業
実施手法	補助金・負担金交付	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	-

2．事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要		文化振興を推進・発展させるために飯塚文化連盟に対して補助金を交付して事業の活動を支援する。また、飯塚文化連盟との連携事業の実施や会議等への参加を行うことにより、事業についての指導や助言を行い、本市における文化活動を推進発展させる。
対象	働きかける相手・もの	飯塚文化連盟
手段	方法・働きかけ（活動指標）	文化振興を推進・発展させるために文化連盟に対して補助金を交付する。また、会議等へ参加し、飯塚文化連盟の事業について指導や助言を行う。
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	文化振興を推進し発展させる。

3．活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
補助金の交付金額	円	飯塚文化連盟補助金の交付額	1,599,000	2,112,600	1,799,000
飯塚文化連盟が主催する会議等への参加回数	回	総会、運営委員会、事務局会議等への参加回数	13	15	

4．成果指標（決算成果説明書と連動）

指標	飯塚文化連盟加盟団体数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		団体	140	目標値	140	140	140
説明	飯塚文化連盟に加盟している団体数	方向性	達成目標年度	実　績	111	99	
		増加	毎年度				
指標	飯塚文化連盟会員数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		人	6,200	目標値	6200	6200	6200
説明	飯塚文化連盟に加盟している団体の会員総数	方向性	達成目標年度	実　績	6544	6427	
		増加	毎年度				
指標	文化祭開催数	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込
		回	5	目標値	5	5	5
説明	文化祭を実施した会場の数	方向性	達成目標年度	実　績	4	5	
		維持	毎年度				

5．事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	－
予算科目・事業	会計 1 一般会計	款 10 教育費	項 5 社会教育費	目 1 社会教育総務費
	大 7 文化振興事業費	中 2 飯塚文化連盟費	他 0 事業	

	(R2以降)	前年度実績（千円）			本年度実績（千円）			増減理由（10%以上の場合）	次年度予算（千円）		
投入人員（当該事務事業に対して１年間に投入した人員）	正職員	0.04	人	326	0.04	人	340		0.04	人	340
	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級フル	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
	会計年度 1級パート	0.01	人	27	0.01	人	30		0.01	人	30
	会計年度 2級パート	0.00	人	0	0.00	人	0		0.00	人	0
人件費計（A）		353			370			－	370		
事業費	直接事業費（B）	1,599			1,909				1,799		
	総事業費（A＋B）	1,952			2,279				2,169		
直接事業費のうちの主な歳出内訳	補助金	1,599			1,909				1,799		
	－	0			0				0		
財源内訳	使用料・手数料（受益者負担分）	0			0				0		
	国・県支出金	0			0				0		
	市債	0			0				0		
	一般財源	1,952			2,279				2,169		
	その他（　　）										

6．事務事業の事後評価★

評価視点	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性評価	高い	飯塚市文化振興マスタープランにおいて「文化芸術活動の財政的支援」及び「飯塚文化連盟との連携」を掲げており、また、飯塚文化連盟は行政の文化施策を推進するうえで中心的な役割を果たしていることから、市が関与し補助金の交付や指導・助言を行うことにより、その活動を支援していく必要性がある。
効率性評価	高い	補助金の交付については補助金の交付要綱に則り補助金の支払い事務を行っており、事務の効率化や人件費削減の余地はない。
有効性評価	高い	交付した補助金は飯塚文化連盟の文化祭事業や企画、研修、広報事業等に充てられており、飯塚文化連盟の活動を支援し、市民による文化芸術活動の推進に繋がっている。 また、飯塚文化連盟主催の会議に参加し、行政の立場として情報提供や助言等を行うことで円滑で適正な事業運営を促進できている。

7．前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
評価区分	成果の方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	令和7年度は文化連盟合併10周年記念事業もあるため、飯塚文化連盟と協議を行い、ホームページ等で一括して情報を掲載する等、広報手段を検討する。
一次評価	現状維持		
	コストの方向性	次年度以降にコスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	－
	現状維持		

前年度改善策に対する実績　★　　※上記の改善策に対して今年度に実施できたこと、などを記入

文化連盟合併10周年記念事業及び各会場の会期について、広報いいづかや市ホームページに掲載したほか、ポスターを作成し公共施設に設置するなど、多くの市民の目に触れるように周知を行ったが、各会場における日程等の詳細な情報を一本化してホームページに掲載するには至らなかった。

8．今年度評価における成果と課題（決算成果説明書と連動）★

【成果】 補助金の交付や会議に参加することにより飯塚文化連盟の活動を支援し、市との共同主催で飯塚総合文化祭を市内5会場で実施することができた。また、補助金の交付は企画事業（I LOVE遠賀川や街道まつりへの参加）や研修事業、広報事業（年2回の広報誌の発行）にも繋がっている。

【課題】 飯塚文化連盟加盟団体は全体的に高齢化傾向にあり、団体数や会員数が減少傾向にある。また、文化祭の筑穂会場や庄内会場についても高齢化や加盟団体数減少に伴い開催が困難になりつつある。

9.今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	【理由】
現状維持	飯塚総合文化祭については年に１度の発表の場であり、文化に気軽に触れることができる体験の場でもあるため、今後も実施していく。
コスト投入の方向性	**【理由】**
現状維持	飯塚文化連盟は行政の文化施策を推進するうえで中心的な役割を満たしており、飯塚市の文化を後世に引き継いでいくためにも、市が関与しながら補助金の交付や指導・助言を行うことにより、継続してその活動を支援していく必要性がある。

次年度以降の改善策（課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策）★	
コスト（人・予算等）を必要とせず、ただちに実施できる改善策	飯塚文化連盟加盟団体の高齢化により団体数が減少傾向にあるため、幅広い年代の方に興味を持っていただけるよう、ホームページ等で文化芸術活動を周知する。
コスト（人・予算等）を必要とし、中長期的に実施する改善策	－

2次評価（最終評価）	成果の方向性 現状維持	市と法人の役割分担が確立し、市民の文化活動を支える基盤的事業として機能していると思料する。加盟団体・会員は高齢化やコロナ禍の影響で減少傾向にあるものの、担当課によれば現在はコロナ禍からの回復フェーズにあるとのことであり、開催を希望する市民も一定数いることから、現段階の事業の方向性としては現状維持とする。
	コスト投入の方向性 現状維持	人件費はボランティアが中心で第三者への資金の流れもなく、補助率3割弱には一定の合理性があると思料する。実績報告時に決算書の提供を求め、繰越金等の状況を確認したうえで必要に応じ減額する対応も行われているが、毎年固定額での支出を基本としており、確認結果を補助額の算定に反映させる運用の明確化について検証の余地が推察された。なお、事務局スペースの無償提供は全庁共通の論点であるため併せて整理し、現段階のコスト投入の方向性としては現状維持とする。